

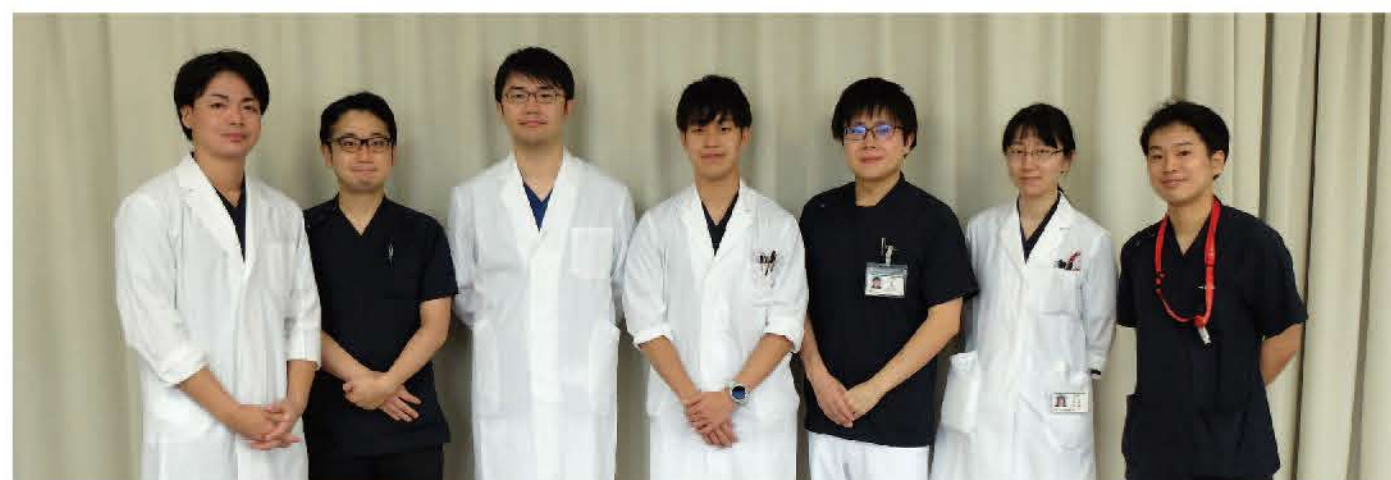


腎臓内科科長 大橋 敦希 医師

大橋医師（腎臓内科）の臨床研究活動が 茨城県医師会勤務医学術奨励賞を受賞

～ 第44回茨城医学会総会（令和4年10月16日）～

当院赴任時より腹膜透析排液細胞分画と臨床指標との関連についていくつか報告を行って参りました。このような形でご評価いただけたこと光栄に思います。学術的視点は常に臨床に寄与するものと思います。引き続き新たな知見があれば発信していきたいと思います。この場を借りて研究の機会・ご指導頂いた前田部長、データ収集に協力いただいた腎臓内科・透析スタッフに感謝申し上げます。



- ① 間野 ちひろ（まの ちひろ）
- ② 産婦人科
- ③ 栃木県
- ④ 舞台鑑賞
- ⑤ 点滴穿孔



- ① 山岡 寛人（やまおか ひろと）
- ② 脳神経外科
- ③ 新潟県
- ④ 昼から飲酒すること
- ⑤ 呑んでも飲まれるな、呑んだら乗るな



医師

新採用者のご紹介

- ① 氏名
- ② 診療科
- ③ 出身地
- ④ 趣味
- ⑤ 好きな言葉



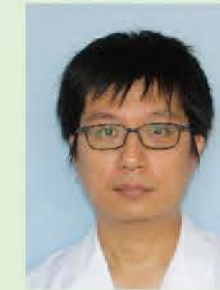
- ① 安 勇哲（あん よんちよる）
- ② 研修医
- ③ 東京
- ④ 旅行・自然散策
- ⑤ 名字は「あん」と読めます。半年間内科でお世話になります。よろしくお願いいたします。



- ① 山崎 勇大（やまざき ゆうた）
- ② 小児科
- ③ 東京都八王子市
- ④ 最近は芸人のラジオにハマっています
- ⑤ 「やってみる」「なんとかなる」のような言葉が好きです。3ヶ月と短いですが、よろしくお願いいたします。



- ① 鈴木 雅仁（すずき まさひと）
- ② 循環器内科
- ③ 福岡
- ④ 硬式テニス
- ⑤ 十人十色



今月の表紙

初期研修医のメンバーです。
医療従事者の方々から日々学び、患者さんに最善の医療を提供できるよう取り組みます。

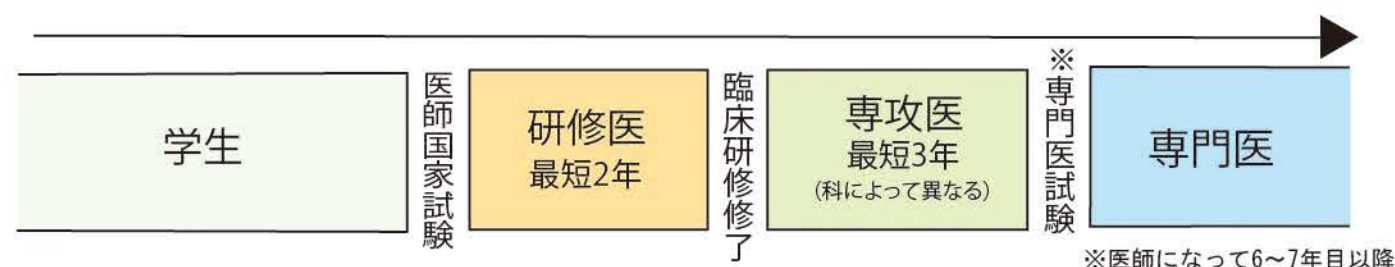
臨床研修制度の概要

臨床研修の基本理念

「臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない」（医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令）

臨床研修制度の変遷

医師臨床研修制度は、昭和21年に創設され、いわゆるインターン制度としてスタートしました。この当時は大学医学部を卒業後、医師国家試験の受験資格を得るための義務とされていました。その後、平成16年に新医師臨床研修制度となり、「診療に従事しようとする医師は、2年以上、医学部を置く大学に附属する病院又は厚生労働大臣の指定する病院において、臨床研修を受けなければならない（医師法第16条の2）」と必修化されました。（下図を参照）



当院の研修プログラム

当院は1998年（平成10年）から臨床研修病院（医師法16条の2第1項に規定する都道府県知事の指定する病院）として研修医の受入れを実施しています。現在、病院には18名の（初期）研修医（1年次：10名、2年次：8名）が診療を行っています。1年目と2年目の研修プログラムは次の通りです。

- 1年目 内科24週、外科8週、選択科目8週、救急8週
- 2年目 小児科4週、産婦人科4週、精神科4週、地域医療、並行研修としての外来実習を4週、選択科目36週

研修責任者から 産婦人科部長 桃原 祥人



当院は茨城県南部の救急基幹病院です。中規模病院ならではの強みとして、指導医と研修医との距離が近いことや、柔軟なプログラム選択が可能などが挙げられます。救急外来では研修医が病歴聴取、身体診察などのファーストタッチを行い、臨床医としての対応力を身につけます。研修医の育成は未来の医療を支える当院の使命であり、指導医の能力も担保され、病院の活力につながります。患者さんには当院の使命や、安全を確保した指導体制があることをご理解いただき、研修医による診療にご協力をお願いしたいと存じます。

研修医の臨床研修

各診療科で臨床研修を受けている様子をご紹介します



外科のカンファレンスに出席（右から3人目）



発熱外来を上級医と担当（右側）



内視鏡手術を研修中（左側）



心臓カテーテル検査を研修中（左端）



救急隊員から患者さんの情報を収集



救急外来で上級医と一緒に診察中（右から2人目）

転倒を予防するには

第2回 転倒の要因

転倒防止は「ぬ・か・づけ」

今回は、転倒する原因についてお話しします。
転倒の原因は、大きく分けると「環境的要因（外因性リスク）」と「身体的要因（内因性リスク）」があげられます。環境的要因としては、滑りやすい床や不適切な靴、



荷物を持っている時などがあります。身体的要因としては、筋力の低下や視力障害、めまいや起立性低血圧などがあります。

当院のリハビリテーション部のスタッフが、普段、転倒しやすい所を覚えていただくために「ぬ・か・づけ」という言葉を考えました。「ぬ」はぬれている所。「か」は階段です。「づけ」は片付けです。床が散らかっていたり、コードを抜かずにそのままだったりすると転倒の原因になります。「ぬ・か・づけ」を転倒防止のためにお役立てください。

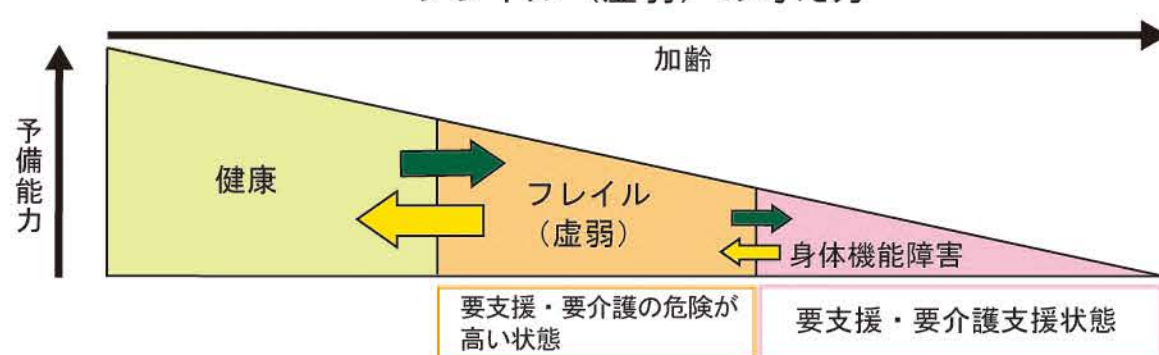
身体的要因のサルコペニアとフレイル

加齢に伴って生じる筋肉量と筋力の低下は「サルコペニア」（加齢性筋肉減少症）と呼ばれます。20歳から70歳代までに、筋肉の面積は25～30%、筋力は30～40%減少し、50歳以降は毎日1～2%程度筋肉の量は減少していくといわれます。

「サルコペニア」になってしまうと「フレイル」（虚弱）になる可能性があります。「フレイル」は、要支援・要

介護の危険性が高い状態です。フレイルがさらに進むと身の回りのことが自分だけでは出来なくなり、要支援・要介護の状態となります。フレイルを予防するために、あるいはフレイルを改善するために、筋力の維持、向上のための運動やバランスのとれた栄養、さらに周囲の方と交流する機会をもつことが大切です。（下図）

フレイル（虚弱）の考え方



出典：長寿医療研究センター病院レター 第49号 虚弱（フレイル）の評価を診療の中に

※転倒予防についてご質問等がある方はリハビリテーション部の受付へお声掛けください。

当院のリハビリテーション部のInstagramでは、この他にも
患者様に有用な情報を発信しております！
こちらのQRコードからアクセス、フォロー宜しくお願いします！



連携医のご紹介

医療法人社団慈誠会 松本眼科

理事長 松本 浩一
院長 加治 優一



診療科目 眼科

診療時間 平日・土曜日 午前：9時～11時30分
平日・土曜日 午後：14時30分～17時
（平日、土曜日ともコンタクトレンズの初診受付は午後4時までとなります）

休診日 日曜日・祝日

連絡先 TEL 0297-74-5224
〒302-0014 取手市中央町2-25取手iセンタービル2階

JAとりで総合医療センターと連携した取手駅前、総合眼科診療施設。最新の医療設備を完備し、最適な医療を提供しています。

一般外来と予約外来（電話：0297(74)5224 ホームページから予約可能）の二本立てで各専門外来合わせ診療しております。全ての疾患に多くの経験があり専門外来として加治院長：角膜疾患、網膜ぶどう膜疾患、頓宮副院長：涙道疾患、眼瞼疾患、木内副院長：緑内障、松本浩一理事長：白内障、

網膜硝子体疾患、松本雄二郎：手術センター長、白内障手術：1400例/年、近視治療：100例/年、眼瞼手術：100例/年、涙道手術：200例/年、網膜硝子体手術：200例/年、緑内障手術：100例/年、その他角膜移植含め多数。基本全てにわたって対応できますが、基本日帰り手術なので入院希望のかたはJAとりで総合医療センターに依頼しております。

うちの新人をご紹介します



（左から中島 綾音、石橋 愛夢、根本 侑奈、倉橋 美羽）

5階南病棟 看護師

5南病棟の元気な新人看護師4人を紹介します。まず、課題にコツコツ取り組む根本さんは真面目で丁寧な仕事をします。石橋さんは、優しい笑顔で患者さんに接する素敵な看護師です。中島さんは、慎重に確認し丁寧な対応ができています。倉

橋さんは、仕事にひたむきで先を見越した行動力があります。この病棟自慢の新人看護師は、患者さんに温かい看護を提供できるよう日々奮闘中です。一歩ずつ成長しますので、温かく見守ってください。（中村 沙緒里）